

# 平成28年度 第1回滋賀県立琵琶湖博物館協議会

日 時 平成28年(2016年)9月28日(水)

13時30分～17時01分

場 所 琵琶湖博物館1階セミナー室

## 会 議 次 第

- 1 開会
- 2 会長・副会長の選出について
- 3 報告事項
  - (1) 新琵琶湖博物館創造基本計画について
  - (2) 第1期リニューアル後の状況について
  - (3) 広報営業活動について
  - (4) 第2期リニューアルについて
  - (5) 新琵琶湖博物館創造基本計画における研究・資料整備について
  - (6) 開館20周年ありがとう記念事業について
- 4 展示視察
- 5 討議
- 6 閉会

〔13時30分 開会〕

## 1 開会

○司会（津田副館長）：皆様、大変お待たせをいたしました。

ご案内の時刻になりましたので、ただいまから平成28年度第1回滋賀県立琵琶湖博物館協議会を開催いたします。

私、本日の司会進行を担当いたします副館長の津田と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、最初に、琵琶湖博物館協議会につきまして、簡単にご説明をさせていただきます。

資料の4枚目ぐらい、座席表の次ぐらいになるかと思いますが、「博物館法（抜粋）」というのを添付させていただいております。この博物館協議会と申しますのは、「博物館法」で、公立の博物館に協議会を置くことができると、このようになっておりまして、博物館の運営に関しまして、館長の諮問に応ずるとともに、館長に対し意見を述べる機関であると、このような表記がございます。

それから、その下に県の「滋賀県立琵琶湖博物館の設置および管理に関する条例（抜粋）」というのがございまして、この中で、この法律を受けまして、琵琶湖博物館協議会を設置すると、このような形で規定をさせていただいております。

定数は、条例の第7条に、「協議会は、委員15人以内で組織する」ということございまして、本日、皆様方にご出席をいただいているところでございます。

本日は15名の委員さん全員ご出席ということでございます。この条例の規定によりまして、本協議会が成立していることをご報告させていただきたいと思っております。

会議に入ります前にお願いを申し上げますけれども、県では、こういった審議会とか協議会の会議の公開を進めておりまして、本日の会議におきましても、会議の公開、事後、議事録の公開ということにつきまして、ご了解をいただきたいと思います。

それでは、開会に当たりまして、当館の館長の篠原よりご挨拶申し上げます。

○篠原館長：皆さん、こんにちは。琵琶湖博物館館長の篠原と申します。よろしくお願いいたします。

今年度、第1回目の第11期となって初めての琵琶湖博物館協議会を開催しましたところ、たくさんお集りいただきまして、心からお礼を申し上げます。

当館は年間来館者数が約36万人、昨年度は少し心配したんですけども、34万人ぐらいだったんですが、そういう来館者数を数えます県の有数の集客施設であります。

全国的に見ても、県立の博物館では上位に位置しております。それでも年々減少してきてまして、私が赴任して6年目になるんですが、赴任した次の年にリニューアル宣言をして、その次の年に基本計画を立て、その次の年に実施設計ができました。

昨年、C展示室を中心にして、C展示室は大きなところが2カ所あるわけですが、閉鎖して、実施設計に基づいて工事に入りました。そして、この7月14日にリニューアルオープンしたというわけです。それは開館20周年に合わせて計画したもので、7月14日にリニューアルオープンしましたけれども、10月22日に今度は国際シンポジウムなんかを開いて、開館20周年の記念式典を行いたいというふうに思っております。

7月14日から9月初めまでの来館者数は予想していた人数を上回り、17万人を突破しました。過去3年間の平均は11万5,000人ぐらいでしたけれども、この期間はおかげさまで、17万人を超える人が来られて、とりあえずリニューアルは成功したかなと思っております。

リニューアルは実は6年間かけて行う予定で、第1期のリニューアルオープンが今回の7月14日で、終わります。これから2年かけて第2期のリニューアル、それから第3期もまた2年かけてリニューアルをやります。それで、6年間かけてグランドリニューアルオープンということになります。3回に分けて行うわけですがけれども、2018年は第2期、2020年には第3期のリニューアルということになります。

その間にもずっとこの協議会は開かれますので、皆さんのご意見をいろいろ賜りながら、直せるところは直し、改善するところは改善して、よりよいリニューアルをしていきたいと思っておりますので、忌憚のないご意見をおっしゃっていただくと、大変ありがたいということになります。

皆さんのお手元に、リニューアル後の初めての「びわ博カルタ」という図録があると思いますけど、それはちょっと変わった図録ですけども、リニューアルオープンで、どういう人たちがこの琵琶湖博物館で働いているのか、関わった人たちが全部顔見世興行のように出ております。きょう、ごらんになっていただくことができますと思いますけど、このメンバーでリニューアルを行ってきたんだということで、どういうことをやっているのか、何をしているのかというようなことがわかるようになっておりますので、ぜひ見ていただきたいと思っております。

そうはいいいましても予算も限られていて、これから4年間の間に、私たちも県のほうに強く働きかけて、なるべく予算を獲得するように努力するわけですがけれども、しかし、その中でも厳しい状況の中でやっていきますので、私たちが気づかない点をいろいろ教えていただきまして、今後活かしていきたいというふうに思います。ぜひ建設的な協

議会の意見をいただくことを希望しておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。  
どうぞよろしくお願ひします。

○司会（津田副館長）：ありがとうございました。

それでは、会議に入ります前に、当協議会はこの9月に委員の委嘱替えをさせていた  
だいておりまして、第11期の委員となりまして、最初の会議でございますので、委員  
の皆様方のご紹介を私のほうからさせていただきます。

正面に向かいまして、左側の列の手前の方から順次ご紹介をさせていただきますので、  
よろしくお願ひいたします。

まず、加藤委員でございます。

○加藤委員：加藤みゆきと申します。よろしくお願ひします。

○司会（津田副館長）：菊池委員でございます。

○菊池委員：菊池と申します。よろしくお願ひいたします。

○司会（津田副館長）：北島委員でございます。

○北島委員：北島です。よろしくお願ひします。

○司会（津田副館長）：佐久間委員でございます。

○佐久間委員：佐久間です。よろしくお願ひいたします。

○司会（津田副館長）：鹿田委員でございます。

○鹿田委員：鹿田です。どうぞよろしくお願ひいたします。

○司会（津田副館長）：下澤委員でございます。

○下澤委員：下澤といいます。どうぞよろしくお願ひします。

○司会（津田副館長）：田淵委員でございます。

○田淵委員：田淵と申します。よろしくお願ひいたします。

○司会（津田副館長）：土井委員でございます。

○土井委員：土井でございます。よろしくお願ひします。

○司会（津田副館長）：中川委員でございます。

○中川委員：中川です。どうぞよろしくお願ひします。

○司会（津田副館長）：中田委員でございます。

○中田委員：中田です。よろしくお願ひします。

○司会（津田副館長）：中坊委員でございます。

○中坊委員：中坊です。よろしくお願ひいたします。

○司会（津田副館長）：橋詰委員でございます。

○橋詰委員：橋詰と申します。よろしくお願ひいたします。

○司会（津田副館長）：山西委員でございます。

○山西委員：山西です。よろしくお願いいたします。

○司会（津田副館長）：横地委員でございます。

○横地委員：横地です。よろしくお願いいたします。

○司会（津田副館長）：吉田委員でございます。

○吉田委員：吉田です。よろしくお願いいたします。

○司会（津田副館長）：ありがとうございました。

なお、今回、第11期委員の委嘱状につきましては、皆様方の前に置かせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、本日、出席しております事務局職員の自己紹介をさせていただきます。

館長からよろしくお願いいたします。

○篠原館長：館長の篠原です。よろしくお願いいたします。

○高橋副館長：副館長の高橋でございます。よろしくお願いいたします。

○グライガー上席総括学芸員：上席総括学芸員のグライガーです。よろしくお願いいたします。

○津田副館長：副館長の津田でございます。よろしくお願いいたします。

○藤村室長：新琵琶湖博物館創造室室長、そして広報営業課長をしております藤村です。

よろしくお願いいたします。

○松田所長：環境学習センターの松田です。どうぞよろしくお願いいたします。

○山川部長：研究部長の山川です。よろしくお願いいたします。

○桑原部長：事業部長をしております桑原です。よろしくお願いいたします。

○磯間課長：総務課長でございます。磯間と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○芳賀課長：企画調整課長の芳賀です。よろしくお願いいたします。

○八尋総括学芸員：総括学芸員の八尋です。よろしくお願いいたします。

○橋本係長：資料活用係長の橋本と申します。よろしくお願いいたします。

○安福交流係員：交流係員の安福です。どうぞよろしくお願いいたします。

○亀田総括学芸員：今回、リニューアルしましたC展示室の総括を担当させていただきました亀田です。よろしくお願いいたします。

○藤田主幹：新琵琶湖博物館創造室の藤田です。どうぞよろしくお願いいたします。

○榎永係長：展示係長の榎永です。よろしくお願いいたします。

○西居課長補佐：広報営業、企画調整の西居です。よろしくお願いいたします。

○司会（津田副館長）：ありがとうございました。

それでは、続きまして、今回、新しくご就任いただきました委員の方が8名いらっしゃ

やいますので、まず皆様方のお手元に「要覧」というものをお渡ししているかと思いますが、こちらのほうで博物館の概要につきまして、簡単にご説明をさせていただきます。座って、私からさせていただきます。失礼いたします。

まず、1ページの「設置の目的」というところをご覧くださいと思います。

ずっと文章を書いておりますけれども、下から2段落目に、「琵琶湖博物館は、湖と人との関係を過去にさかのぼって……」とございます。ここが「設置の目的」の核になるところなんですけれども、「琵琶湖博物館は、湖と人との関係を過去にさかのぼって研究・調査し、資料を収集・整理し、その成果をもとに県民とともに考え、今後の望ましいありかたを探るための組織として構想された」というふうなことで、1996年(平成8年)4月に設置をされまして、10月からオープンをしたということで、先ほど館長が申しあげましたように、今年で20周年を迎えたということでございます。

この博物館は研究施設でもありますし、文化施設とか、いろんな顔を持っておりまして、多面的な、多様な施設として今日に至っているということでございます。

それから、2ページ目に、「基本理念」ということで3つのことが書いてございます。

1つ目が「テーマをもった博物館」ということで、「湖と人間」というテーマに沿って、この研究を進めていく、そういうところなんだということが1つでございます。

それから、2点目が「フィールドへの誘いとなる博物館」ということで、魅力ある地域への入口として、フィールドへの誘いの場となる博物館ということでございます。琵琶湖とその集水域は、自然の生態系、そして自然と人との葛藤を長い歴史の中に包み込んだ場ということでございます。

それから、3点目が「交流の場としての博物館」ということで、博物館は展示とか、こういったもののほかに、交流ということを非常に大事にしている場でございます。

この3点が大きな「基本理念」として掲げているところでございます。

それから、次、4ページをご覧くださいと思います。

「活動方針」として、大きく5点が掲げられております。

1つ目が「研究・調査」ということでございます。やはり研究・調査というのがこの博物館活動の根幹ということで位置づけをしております。

それから、2番目が「交流・サービス」。先ほども申しましたように、博物館の一つの機能といたしまして、交流とか、このあたりを非常に重視して活動をさせていただいております。

3点目が「情報」ということで、琵琶湖を中心といたしまして、日本および世界の湖沼に関する知識や情報を収集・蓄積して、それを分析・整理した上で提供していくとい

うことでございます。

4点目が「資料整備」ということでございますが、これまでにいろんな資料、約90万点ほど収集をさせていただいております、それを整理して、皆様方に展示等を行いながら、活用いただいているところでございます。

5点目が「展示」ということで、これが博物館の大きなところで、常設展示というのが基本でございますが、年間1回は企画展示といったものもさせていただいております、現在、企画展のほうも、先ほど「びわ博カルタ」というのがございましたけども、この9月17日から来年1月までさせていただいているところでございます。

博物館というのは、こうした大きな5つの活動をしているということでございます。それから、次、6ページをご覧いただきたいと思います。

今の活動の中で、幾つかトピック的なところを紹介させていただきますと、「研究・調査活動」ということでございますけども、私どもが行っております研究には、大きく3点ほどございまして、総合研究、共同研究、専門研究といった大きなところがございます。

総合研究といいますのは、この琵琶湖博物館のテーマといたします「湖と人間」ということに沿って、学際的・総合的な課題に取り組むというものでございますし、共同研究につきましては、総合研究に比べますと、個別専門性が高い分野で、当館の学芸員が企画をいたしまして、博物館内外の研究者の方と共同で研究をする、そのような研究でございます。

それから、専門研究といいますのは、これはどちらかといいますと、学芸員の個別専門分野での高度な研究能力を維持していくためにやっている研究、このような分類をさせていただいております、研究を進めさせていただいているところでございます。

それから、ちょっと飛びますけれども、11ページをご覧いただきたいと思います。

「資料整備活動」という項目がございますけれども、先ほども申し上げましたように、各種の資料を90万点ほど収集させていただいております。100万点ほど集まれば、一人前の博物館だと言われているようでございますけれども、それに迫る数が整ってきたということでございます。

そういう中で各種の収蔵庫とか、こういったものを持っておりまして、こちらのほうで保管をさせていただいているというところでございます。

それから、次に、15ページをご覧いただきたいと思います。

「展示活動」ということございまして、2番に常設展示というのがございますが、当博物館には大きく4つの展示ルームがございます。

A展示室「琵琶湖のおいたち」という部分、それから16ページに行きますが、B展示室ということで、「人と琵琶湖の歴史」を展示した部分、それからC展示室ということで、今回、ここはリニューアルさせていただいてますが、「湖のいまと私たち～暮らしとつながる自然～」というタイトルがついております。

それから、17ページにまいりまして、もう一つ、大きな特徴であります水族展示です。淡水魚を中心とした水族展示部分ですが、この大きく4つの部分を持っているということでございます。

その他、子どもさん向けの展示をしておりますディスカバリールームでありますとか、屋外のほうの展示もあるところでございます。

ざっとこういったところでございますが、またその他、沿革なども出ておりますので、またご覧いただければ幸いです。

以上、簡単でございますが、概要説明とさせていただきます。

それでは、次でございますが、本来ですと、この会議の進行は、条例の規定に基づきまして、会長が議長として行うことになっておりますが、今回、新しく第11期の協議会の初めての会議ということでございまして、現在、会長は決定しておりませんので、新会長が決まりますまで、事務局で議事の進行をさせていただきます。

## 2 会長・副会長の選出について

○司会（津田副館長）：それでは、お手元の次第にございますが、最初の議題であります会長・副会長の選出についてでございます。

条例の第8条では、「会長および副会長は、委員の互選により定める」となっております。

いかがさせていただきますでしょうか。

（「事務局一任」の声あり）

○司会（津田副館長）：ただいま、「事務局一任」という声をいただきましたが、皆様方、いかかでございますか。

よろしゅうございますでしょうか。

○委員全員：（うなづく）

○司会（津田副館長）：ありがとうございます。

異議もないようでございますので、僭越ながら、事務局から提案をさせていただきます。

事務局といたしましては、これまでの経過の部分もございますので、第10期で会長



をお願いしておりました西宮市貝類館顧問の山西委員に会長を、また副会長には、結・社会デザイン事務所代表の菊池委員をお願いしたいと存じますが、いかがでございますでしょうか。

(拍手)

○司会（津田副館長）：ありがとうございます。

皆様方のご同意をいただきましたので、会長には山西委員を、また副会長には菊池委員にご就任いただきたいと思います。

申し訳ございませんが、山西委員におかれましては、会長席のほうにご移動をお願い申し上げます。

○山西会長：失礼します。

それでは、皆様のご推薦をいただきましたので、会長として以後の議事の進行をさせていただきますので、どうぞ皆様、ご協力よろしく願いいたします。（拍手）

ありがとうございます。座らせていただきます。

それでは、次第のとおり、本日の会議の流れとしましては、まず報告事項ということで、これまでの経過説明や現状報告の後、館内のリニューアルされたところの展示視察をしまして、その後またご意見をいただくということで進めていきたいと思っております。

### 3 報告事項

#### (1) 新琵琶湖博物館創造基本計画について

○山西会長：それでは、報告事項について、事務局のほうから説明をお願いいたします。

○芳賀課長：お手元の次第のほうでは、(1) 新琵琶湖博物館創造基本計画についてとありますけれども、追加で前回の協議会で各委員の皆様からいただいた質問、意見等々、それからどのようにお答えしたかというのを、資料4のほうにまとめてあります。

これは、前回の会議がどのようなものであったかをお知りいただくのと、それから前回から引き続き参加されている方たちには、その後どうしたかということがわかるようにということで、まとめさせていただいております。

ここでは、前回の協議で出てきました主な意見とか、提案とかを18出してあります。

その中で、協議会の中での回答で終わったものにつきましては、「協議会での回答」というところで終わっておりますけれども、その後、宿題となりましたり、あるいは協議会ではお答えが十分でなかったと思われるものについては、「その後の対応」というところを書かせていただいております。

中身に関しましては、例えば学芸員の配置についてご心配をいただいたりとか、それ

からデータをこういうふうに使ったらいいよというご提言をいただいたりとか、それから前はリニューアル直前でしたので、リニューアルの展示に関するご意見・ご要望をいただいております。それから、あと、ユニバーサルデザインですとか、アクセスの問題などが取り上げられております。

時間の関係もございますので、協議会の回答でもう終わったかなというものに関しましては、お読みいただければと思うんですけども、その後の対応が必要になったものについて、ちょっとだけご説明申し上げます。

2番のほうの学校連携の実績についてというのは、県内の小学校の8・9割が来ているのだったら、それをもっとアピールすべきというご意見ということで、実際、79%が来ておりますというお答えをしていたんですが、どうもこれは議論がかみ合っていなかったようで、7割、8割来ているんじゃないか。8割、9割、来ているというデータを博物館のアピールにもっと活用すべきということであったということで、後で気づきました。

「その後の対応」というのでありますけれども、実はその後ということではないんですが、博物館がいろんな学校に行って、遠足どうですかとか、あるいは修学旅行どうですか、というふうに説明するときは、実績の数値を用いて実はやっておりましたということで、ここでご報告させていただきたいと思っております。

それから、5番については、観覧場所の車椅子スペースの問題ですね。バイカルアザラシのところにもそういうのが必要ではないかというのがあったんですけども、ご提言をいただきまして、実際に展示室のほうでそのように運営をしております。まだ完全な状態ではありませんので、本日、展示を見ていただいた際に、ほかの展示のところのご質問とかも含めてですけども、いろいろご提案をいただければと思っております。

それから、ページをめくりまして3枚目ですね。アクセスの問題について、いろいろご意見をいただいております。特に、公共交通機関で来ることがなかなか難しいということで、ぜひこの機会に、バスとかの増便をということだったんですけども、何としてでも、リニューアルをてこに増便を図りたいということで、ことしの夏に関しましては、そこにありますように、バスが土日ですけども、だいぶ増便がされました。来年続くかどうかは、ちょっとわからないんですけども、あと、烏丸半島クルーズというのがスペシャルなものとして行われたということです。

それから、最後のところにあります車椅子が利用できる公共機関の充実についてということで、これもちょっと議論がかみ合っていなかったところがあったんですけども、後々よく調べてみますと、例えば車椅子の方が公共交通機関を利用するときに、個人でしたら、

まだ可能でも、団体ではなかなか動けないということで、個人とか団体とか、気兼ねなく動ける滋賀県になってほしいなということで、そういう声を博物館としても上げてほしいというふうに理解いたしました。まだ何ができているというわけではないんですけども、きょう見ていただく展示もユニバーサルデザインの見地をだいぶ盛り込んでつくっておりますけれども、今後、博物館の館内のことだけではなくて、そういう周辺環境の整備においても、ユニバーサルデザインという見地は入れて進めていきたいというふうに考えております。

そういうことで、前回の会議で出ました主な質問と、それに関するお答えについて報告をさせていただきます。

### (1) 新琵琶湖博物館創造基本計画について

○藤村室長：それでは、引き続きまして、議題（1）から（4）まで、一括して私のほうから説明させていただきます。

パワーポイントを使いますので、会長さん、すみません。

お手元に、「新琵琶湖博物館創造基本計画（概要版）」と、「本編」を用意しておりますが、時間の関係上、全てを説明させていただくことはできません。パワーポイントで基本計画の概要のポイント部分だけをちょっと用意をいたしましたので、それで説明をさせていただきたいと思います。

まず、博物館のリニューアルの計画全体でございますが、実は24年からスタートをいたしました。基本構想であるビジョンの策定をいたしまして、リニューアルの方向性を提示しております。

今、お話ししているのがその翌年にできました基本計画でございますが、ここではリニューアルの全体像を提示しております。この基本計画を受けて、26年度に第1期のリニューアル、C展示室と水族展示ですが、これの実施設計を行っております。実施設計というのは、具体的な工事に向けての仕様書であったり、図面の作成を行うものです。そして、27年、28年と第1期の工事を行って、夏休み前の7月14日にリニューアルオープンをいたしました。この基本計画というのは、こうした博物館全体のリニューアル計画を示すものです。

この基本計画で、新しい琵琶湖博物館はどういった姿を目指すかということで、3点、整理しています。

まず1点目は、琵琶湖博物館の使命であります「湖と人間」のあり方を県民とともに考えて、行動する博物館。

2点目は、これまでの交流の場としての博物館から、次代を担う人が育つ拠点となる博物館に進化をしていくという、こうした姿を提示しております。

3点目が、地域活性化の核となる博物館です。博物館は当然博物館であるんですが、研究施設、生涯学習施設、環境施設、また観光施設としての顔も持っております。こうした博物館の多面性を生かして、地域活性化の核となっていく、こうした姿を描いております。

基本計画で示すリニューアルの方向性ですが、まず常設展示を再構築いたします。そして、それとあわせて交流空間・交流機能、ソフト的な部分の再構築も行おうとしております。

まず常設展示ですが、体験的な展示を多く取り入れて、琵琶湖の魅力を発信していくということで、参加型、体験型の展示。また、県民ニーズ、最新課題に対応した展示、こうしたものをふんだんに取り入れていきたいと思っております。

交流空間・交流機能では、先ほど申しました次代を担う人が育つ交流の拠点となるような博物館を目指していきます。

新展示の考え方ですが、「湖と人間」の未来を考えることができる展示というようになっております。このA展示室、B展示室、C展示室・水族展示、この展示室の区分は変えません。

A展示室は非常に長い時間スケール、数百万年という地質学的な長い時間スケールに立って初めて見えてくる変化。そうしたことを踏まえて、ここの現在を捉え直して、「湖と人間」の未来を考えていくような展示室になります。

B展示室は、それよりも短い時間スケール、1万数千年、琵琶湖地域に人々が住み始める縄文時代以降の変化を捉えて、現在を捉え直し、「湖と人間」の未来を考えます。

C展示室・水族展示につきましては、もっと短い時間スケールです。特に、戦後の高度経済成長期以降、何が起こったのかということを考えつつ、「湖と人間」の未来を考えていくという、こうした異なる3つの時間スケールで多様な視点を示しつつ、琵琶湖なり、そうした自然と私たちの暮らしの関わり、こうしたものを提示していく展示となっております。

新しい展示の特徴。体感、驚きと感動、学びと発見が生まれる展示と書いておりますが、体感型・参加型の展示を多く取り入れ、実物資料もふんだんに取り入れます。また、交流の場をふやすことによって、子どもから大人までが楽しめる、学びと発見の機会に満ちた発信力の高い展示としていきます。

リニューアルのスケジュールですが、実は3段階、3期に分けて実施をしようとして

おります。現在、第1期が終わりました。平成30年の完成を目指し、第2期リニューアルということで、大人のディスカバリー、樹冠トレイル、レストラン・ショップ、これは後ほど紹介をいたしますが、こうしたものを整備いたします。そして32年の完成をめどに、残るA展示室、B展示室をリニューアルして、いわゆるグランドオープンという流れになります。

こうしたリニューアルを通じまして、琵琶湖博物館の発信力、活動機能を強化して、私たちの使命である「湖と人間」のよりよい共存関係が築かれた社会を実現していく、これが基本計画で描かれている考え方であります。

そうした取り組みを通じて、来館者数も一定確保していきたい。博物館活動が即来館者数ということではないんですが、やはり発信力の高いいい展示をつくると、多くの方に魅力を知っていただけます。また、こうした私たちの使命を一人でも多くの方に伝えていきたいということで、より多くの方に琵琶湖博物館を利用していただきたいという、そうした思いから、一つの指標として、こうした来館者数を挙げております。第1期では42万人、そして最終第3期では60万人を目標に頑張っているところです。

## (2) 第1期リニューアル後の状況について

○藤村室長：それでは、第1期のリニューアル後の状況について報告をさせていただきます。

その前に年間の来館者数の推移ですが、館長の挨拶でもありましたが、平成8年10月にオープンをしておりまして、平成9年からデータをお示ししておりますが、97万人あった来館者が、60万人強から50万人と落ちまして、あとはちょっと安定はしておりますものの、やはり年間、2%から8%の割合で減少をしております。こうした現状でございます。このリニューアルによって、第1期で42万人、第3期、グランドオープンで60万人を目指しているということで、これが基本計画で描いている目標になります。

こちらは過去10年間の夏休みの期間の来館者数です。7月14日、リニューアルオープンしたときから、8月末までの10年間を比較してみました。おかげさまで、28年、リニューアルオープン後は17万1,418人と、昨年度と比べても大幅に増加をしております。ただ、先ほどの傾向で、ずっと低下をしてきていると申し上げましたが、夏休みに限っては、V字で回復をしております。

これは実は平成23年に、滋賀県のこうした博物館のような公共施設の無料開放のいわゆる「節電クールライフキャンペーン」というのがありまして、それがこの期間の来

館者数の底上げの要因になっております。

また、この夏休みの期間は開館以来、7月中旬から11月下旬まで、企画展示を開催しているということで、こうしたものが来館者数の増の要因になってきておりましたが、実は平成28年につきましては、夏季の無料開放がなくなりました。企画展示もリニューアル前ということで、9月からのオープンということで、こうした2つの底上げ要因がない状態で、逆風の状態ではあったのですが、何とか17万1,000人を確保しております。

具体的に来館者の意見を8月26日からのアンケートで聞いております。

「満足した」が84.5%ということで、多くの方に新展示を満足していただきました。

具体的な意見としては、こちらにありますように、「五感で感じられる博物館がさらに強化された」とか、「タッチパネル等がとてもわかりやすかった」「生態系の変化に大きく関わっていることを痛感した」「生命について深く考えさせられた」。また、「バイカルアザラシがかわいかった」という、これは非常に多くの意見がありました。

ただ、一方で、不満に感じられた意見もあります。相対的に不満という方は少なかったのですが、その中でも、「別にアザラシは見たくない。もっと琵琶湖の魚を多く取り入れてほしい」という、こういうご意見がございました。

年度別の来館者数でいきますと、現在、9月25日の時点で26万人ということで、目標42万人に向けて、この秋以降の下半期、頑張っていきたいなと思っておりますが、具体的にはこの9月17日から企画展示、「びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」がスタートいたしました。また、10月22日には、20周年の記念事業を行います。さらに、11月の「ありがとう交流会」、またその前後に「アトリウムコンサート」、また最近、学校・団体利用の予約がやっぱりリニューアル効果もあって、ふえております。そうしたことを通じて、話題性の高い広報活動を展開することによって、42万人の達成を図りたいと思っております。

### (3) 広報営業活動について

○藤村室長：次に、広報営業活動です。

リニューアル前にリニューアル告知の広報活動を実施いたしました。5月31日から在阪メディア、在京メディア、東海、中国、四国等のテレビ局をはじめ、計330件の配信になりますが、こうしたことを行っております。

また、バイカルアザラシの搬入なんかの話題性の高いものもご案内をいたしましたし、7月12日がプレス内覧会でしたので、そうしたご案内をいたしました。

結果として、これはまだ中間集計なんですけど、Webで234件、新聞46件、雑誌40件、またテレビ・ラジオでも取り上げられております。テレビはNHKのニュースをはじめ、「ガイアの夜明け」「かんさい情報ネットten」「おはよう朝日」なんかでも取り上げていただきました。

また、Web広告として、JR西日本の「いこーよ」バナー広告、これは携帯サイトのほうですが、そうしたものであったり、「Google」のバナー広告、「YouTube」の動画。特に、「Google」と「YouTube」は10月31日まで行います。クリック数も当初予定していたより多くありまして、特に、「YouTube」の動画は当初、10%の視聴率を予想しておりましたが、30%あったということで、大変好調だったかなと思っております。

また、交通広告として、京都駅、大阪駅のデジタルサイネージ、また電車の中吊り広告、こうしたことも行っております。

こうした取り組みによって、夏休み中の来館者数の確保を図ったところです。

次に、営業活動の展開です。

昨年度、琵琶湖博物館に広報営業課ができ、リニューアルサポーター、メンバーシップ、水槽サポーターという3つの制度を創設いたしました。

リニューアルサポーターは文字通り、琵琶湖博物館のリニューアルに寄附をいただくという制度で、1口50万、メンバーシップは博物館の企業会員という位置づけで、博物館活動を支援してくれる会員で、1年/5万円、3年/10万円のコースがあります。水槽サポーターは水槽の維持管理を支援していただくサポーターで、3万円～50万円、これは水槽の大きさによって異なります。

リニューアルサポーターとメンバーシップは、こうしたアトリウムに銘板を掲示し、水槽サポーターについては、こういう水槽に企業名の掲示をさせていただいております。

その実績でございますが、27年、28年、こうした活動を行いまして、リニューアルサポーターについては48社で、4,369万6,000円、水槽サポーターは22社、137万円、メンバーシップで31社、280万円。合計で101社の4,786万6,000円のご支援を得ているところでございます。

次に、個人会員です。

これは個人会員というよりは、年間観覧券、いわゆる年パスの制度をこのリニューアルに合わせて新規一転をいたしました。「倶楽部LBM」です。現在、6,480人入っていただいておりますが、7月14日のリニューアルオープン後、非常に多くの人に入っていただいて、オープンする前は非常に少なかったんですが、オープン以後、多くの

方に入っていました。

#### (4) 第2期リニューアルについて

○藤村室長：次に、第2期リニューアルについてご説明いたします。まだ実施設計をスタートしたばかりですので、先ほど紹介いたしました基本計画で描かれている第2期リニューアルについてご説明をいたします。

今回、リニューアルするのは、この5つになります。

大人のディスカバリー、これは現在あります図書室を改装して、新設をします。

ディスカバリールーム、これは今あるディスカバリールームの改修です。

樹冠トレイル、これは新設で、アトリウムの屋外にトレイルをつくります。

レストラン・ショップ、これは今あるものの改修です。

団体等休憩室・交流活動室、ここは新設で、旧UNEP施設を活用してつくっていきなたいなと思っております。

スケジュールですが、この8月から実施設計をスタートいたしまして、3月に完成をしていくということで、平面図、立面図、仕様、工期等がこちらで明らかとなってきます。

実際の工事は29年から30年、2年かけて行います。29年の夏休みが終わった秋以降に工事を開始し、工事の種類によって工期がちょっと違いますが、9カ月から12カ月と、このように考えております。

それでは、今、どういうふうを考えているかということを紹介をいたします。

まず、大人のディスカバリーです。ここは標本や剥製に自由に触れることができ、資料を調べ、顕微鏡で観察ができる知的空間という位置づけをしております。学芸員などの博物館スタッフとの交流を通じまして、博物館の楽しさが伝わり、琵琶湖や自然への関心を高め、地域や博物館での活動への参加を促していく、こういう展示室になります。ここは調べるゾーンとサロンゾーン、2つのゾーンから成ります。

具体的なイメージですが、これもこのようになるかどうかはまだ決まってないんですけども、ここが今の図書室で、こういうわかりやすいアイキャッチがあつて、ここから入ってきます。こちらが調べるゾーン、こちらがサロンゾーンになります。この調べるゾーンはもう少し大きくしたいなというふうに思っております。

具体的な感じはこんな感じですね。左上のこれは、博物館スタッフが資料整理なんかをしている現場を、来館者の方が見られるというようなもの、こちらは相談コーナーで、学芸員にいろんな相談ができる。これがオーストラリアの博物館の実際のディスカバリー



一の写真ですが、大人の人がこういうふうに顕微鏡で観察したり、すぐ近くには剥製があったり、こうした空間になります。

次に、ディスカバリールームです。現在の子ども中心から、子どもが大人と一緒に楽しめるための仕掛けをふやして行って、親子の対話によって学習効果を高める展示室としていきたいなと思っております。特に実物標本をふやすなど、ホンモノで楽しめる展示に転換し、小さいころから本物を観察する体験や、その楽しさを伝えたいと思っております。

イメージはこうしたイメージで、聞く、においをかぐ、さわる、こうした五感で体験したり、ここは親子がいろんなことが経験できる、親子の会話を通じて経験をしていくような、こうした場所をつくっていきます。

次に、樹冠トレイルです。琵琶湖の湖畔にある立地条件を活かしまして、来館者が琵琶湖や屋外展示の「森」をたっぷりと体感できるような空間として整備をいたします。

展示室とフィールド——ここでは現場と言っておりますが——琵琶湖であったり、田んぼであったり、歴史・文化に関心のある方のフィールドは、寺社仏閣かもわかりませんが、ここでは特に、琵琶湖というフィールドとつなぐ誘いの空間になります。琵琶湖が一望でき、琵琶湖と一体感が感じられる展望デッキを設けて、屋外展示の「森」を上から観察できる空中遊歩道を整備いたします。

イメージですが、このようになります。

博物館はこの辺にあります。ここからずっとメイン通路を通じて、ここが展望デッキ、ここがサブルートで、樹冠の部分が観察できると。これがデッキの拡大のイメージですね。こうしたものになります。

次に、レストランです。ランチでも、カフェタイムでも利用できるカフェレストランに転換をし、集客増を目指していきたいと思っております。地元食材を用いた料理を提供いたします。湖魚であったり、伝統野菜を使ったメニュー、また近江茶を使ったカフェメニューなど、琵琶湖博物館らしいメニューの充実を図ります。

これがイメージで、これは博物館の展示と結びつく入口の展示棚、これはレストランの中ですが、展示棚があったり、これは近江の食材のレプリカなどです。そしてまた、これはフィールドへ誘うようなマップ、こうした仕掛けもしていきたいなと思っております。

次に、ショップです。店内を琵琶湖博物館らしいグラフィックで包むなどして、展示室のようなショップにしたいと考えております。展示関連商品、またフィールドと関連した商品などのオリジナル感あふれる商品や書籍など、博物館ならではの品ぞろえをし

ていきたいというふうに思っております。特に、こういうふうに関口部を広くとります。今は実は、ここがカウンターみたいなものがあって、人が通れるのがこの辺だけのスペースなんですけど、こういうふうに関くとして、ベビーカーであったり、車椅子も通行しやすいような、そうしたものをつくってきたいなと思っております。

最後に、団体等休憩室・交流活動室です。学校等の大規模団体の利用促進を図るため、開館以来、ニーズの高い昼食休憩スペースを整備いたします。また、障害のある方も利用しやすいユニバーサルデザイン対応の休憩所も整備したいなと思っております。さらに、「はしかけ」「フィールドレポーター」などの多様な主体が共同連携して、ワーキングであったり、交流できる共同利用の活動交流室なんかを整備いたします。

今後の検討ということなんですが、8月にスタートしたばかりです。きょうは、博物館協議会でご意見をいただきたいと思っております。また、県議会の審議、有識者評価、ユニバーサルデザイン評価、来館者調査、他館調査、こういうようなことを実施して、3月には実施設計を作成したいと思っております。

以上でございます。

それでは、引き続き、説明をさせていただきます。

#### (5) 新琵琶湖博物館創造基本計画における研究・資料整備について

○山川部長：引き続きまして、(5) 新琵琶湖博物館創造基本計画における研究・資料整備についてということで、まず、研究のほうからご説明したいと思います。

お手元の資料2のA4の裏表の資料と、本日お配りしている資料で、研究に関する中長期計画と実績というA4の横に、ちょっと図みたいなものを書いてあるものがあると思うんですが、この2つでご説明したいと思います。

先ほど、新琵琶湖博物館創造基本計画という内容をご説明させていただきましたけれども、その中心は、今回の展示や交流のリニューアルということが基本となっておりますが、実はそれを支えてきた当博物館の根幹となる研究・調査活動について、この基本計画の中ではさらにと述べてあるところでして、もう少し深く方針を決めていくべきだろうということで、今回、策定をしているところです。

ですので、この新琵琶湖博物館創造基本計画の一環として、グランドオープンに向けての期間について、方針を策定したいと思っております。

A4横の資料を見させていただきますと、昨年度終わりましたけれども、中長期目標「地域だれでも・どこでも博物館」というのが2002年から2015年にかけて、第1段階から第3段階に分けて、その目標を達成すべく、博物館活動をやってきております。

その根源になる研究の推進ということは、2002年度、開館した当時からずっと続けられてきた研究活動ではあります。

その20年間の成果を今回、2015年から2020年にかけて、研究成果の還元期間というように位置づけまして、第1期から第3期までの展示・交流のリニューアルを支えていくというふうに位置づけております。ですので、その成果を展示、あるいは交流に活かしながらも、やはりさらに先を見据えながら、研究を継続してやっていくということが重要になってきますので、それについて研究を推進するための方針として、今回、まとめさせていただいております。

資料2の4、「継続的な研究推進」というところから見ていただきたいと思います。

琵琶湖博物館は研究・調査活動こそが博物館の根源であると位置づけております。「湖と人間」のテーマのもと、琵琶湖とその周辺の多面的な価値を地域の人たちとともに探っていきたい、それを継続して行っていきたいと強く考えております。

それで、まず研究テーマとして3つを掲げたいと考えております。

1つは、「湖と人間」の共存関係を考えるための価値を発見する研究です。

これは新しい時代にふさわしい「湖と人間」の共存関係を考えるための新知見を提供していきます。琵琶湖淀川水系の固有種を含む生物多様性や、その形成過程、環境の変化など、自然や地史に関する研究をやっていきます。

また、「湖と人間」の関わりの歴史的・文化的特徴を捉えていく研究、さらに現在進行している琵琶湖の変化を記録し、未来に向けて、そのあり方を検討するための材料を提供するような研究というふうに考えております。

2つ目は、展示のリニューアルでも中心となっております「古代湖」としての琵琶湖の価値を探る研究です。

世界各地の古代湖との比較研究を行い、古代湖の一つである琵琶湖の多面的な価値を探っていきます。

当館は国際的協力協定を海外の博物館や研究機関と連携協定を結んでおります。そこを中核としながら、まずは世界最古の古代湖であるバイカル湖をはじめ、海外の古代湖と琵琶湖との比較研究を進めていきたいと思っております。

3つ目が、研究を推進、蓄積、発信するための博物館学的研究です。

地域の人々とともに研究し、資料を蓄積し、成果をわかりやすい形で発信できる博物館となるような研究を行っていきたいと思っております。

これは当館独自のはしかけ制度ですとか、あるいはフィールドレポーターさん、それから地域の活動団体などの地域の人々とともに参加型の調査を進めながら、そういった

研究を進めていきたいと思っています。

また、田んぼ研究会など、あるテーマや対象に絞って、それぞれのいろんな立場の人々がお互いに研究・交流を進めながら、新しい研究課題を発掘、発信できるような研究。

また、次の世代に継承していく地域の生物や人間活動に関する資料・標本を保存記録し、未来を考えるための蓄積方法等も含めた研究を進めていくというものです。

5番ですが、研究における博物館の「木」から「森」へ。

これは新琵琶湖博物館創造基本計画の3つの理念、先ほどご説明させていただきましたが、その3つの理念をこの研究活動を通じて具現化していきたいと考えております。

古代湖の比較研究を通じて、国内外の研究者とともに、最先端の研究を担っていけるようにしたいと考えております。

また、研究で得られた成果を誰もが活用できるように整備しながら、またそれを使って新しい研究が進められていくという、研究自体を広めていくということを目指していきます。

3つ目が、研究成果をわかりやすく発信するというので、今年度、「琵琶湖博物館ブックレット」というシリーズ物の本も出版しておりますが、そういった新しい出版物、それからホームページを活用した情報発信等を踏まえ、それをまた活かしながら、新しい視点の研究につなげていきたいというふうに考えております。

研究活動については以上です。

○橋本係長：それでは、引き続きまして、資料整備活動についてご報告させていただきます。資料活用係の橋本です。よろしくお願いたします。

資料は続きまして、先ほどの研究の次の3ページからと、「研究に関する中長期計画と実績」の最後の裏のところです。ここに琵琶湖博物館の資料整備活動の実績を掲げさせていただきます。

収蔵点数は90万点を超えております。そして、主な資料につきましては、書かせていただいているとおりでございます。

本文編のほうに戻りまして、資料活用の目標といたしましては、世界へ琵琶湖の価値を発信する研究、展示、交流活動の基盤となる資料の整備ということで掲げております。

柱としては、4本の柱を掲げております。

1つ目は、「リニューアルグランドオープンにむけての資料活用」ということで、20年間に収集・整理された資料をリニューアルで有効に活用できるよう、必要となる分野の資料について、選出と整備を進めてまいりたいと思います。

2つ目といたしましては、「琵琶湖博物館ならではの特徴あるコレクションの充実」ということで、過去、20年間に収集・整理された資料に加えまして、生物のタイプ標本をはじめといたしまして、古代湖の歴史や地史、人間との関わりに関する資料、さらには微小生物から哺乳類まで、水域や陸域の生きた資料など、琵琶湖博物館ならではの特徴ある資料の収集・整理を進めたいというふうに思っております。

3番目といたしまして、「飼育生物の継続的展示体制の確立」を掲げております。

これは第1期リニューアルで新設されました「古代湖の世界」や「マイクロアクアリウム」——この後、ごらんいただくこととなりますけれども——など、琵琶湖の魅力を伝えるため、新規で飼育を始めた生物や、長期にわたって少数固体を用いた人工繁殖を続けたことにより、遺伝的多様性が低下している希少淡水魚など、展示を行っている飼育生物につきまして、展示効果を高めながら安定的に維持していくための体制と技術の確立を目指したいと思っております。

次のページにいきまして、4ページ目でございますけれども、最後、4番目の目標といたしまして、「情報資料の保存と公開の促進」を掲げております。

これは琵琶湖博物館が収集している世界的に価値のある情報資料につきまして、将来にわたって保存し、さまざまな博物館活動に活用できるよう整備するとともに、そのための体制づくりを行っていききたいというふうに考えております。

資料活用係からは以上でございます。

## **(6) 開館20周年ありがとう記念事業について**

○芳賀課長：報告としては、最後になります。

開館20周年ありがとう記念事業についてなんですが、今の(5)のところについて、若干補足説明をさせていただきますと、先ほど山川のほうからも説明がありましたように、最近の博物館はちゃんと長期計画をつくって、それに沿って今年は何をやるというのをやって、どこまでできますかというのをチェックしながら進めましょうというのが文科省とかからも出ております。

実は琵琶湖博物館は15年前に中長期基本計画をつくりまして、それに沿ってやってまいりました。それが去年終わりました、じゃ、ここしばらくはどうするかといったときに、今、リニューアル絡みのところでつくりました新琵琶湖博物館創造基本計画、これにのっとってやっていきたいと思いますということになっております。

ただ、基本計画のほうを見ていただくとわかりますように、これはこういう博物館になりたいというのを並べたものですので、今年はこれをやりましょうみたいな行動計画

というのはまだできておりません。本来ですと、この場でそういう行動計画をご紹介できればよかったですけれども、リニューアルとかで忙しかったこともありまして、次の協議会までにそういった行動計画をつくって、来年度から進捗を管理していきたいと考えています。

その中で、お手元の基本計画の中で、そういえばということで、研究と資料が抜けていましたので、これはいかんということで、追加する形で今、研究と資料について方針を出させていただいたということです。ですので、これに基づいて、次の協議会のときには、来年以降、こんなふうにしていきますという形でお示しできると思います。そういう理解でよろしく願いいたします。

最後の報告は、20周年記念事業ですけども、これは簡単に、こういうものがありますということでご紹介させていただきます。資料3になります。

ここにありますように、先ほど藤村のほうからも紹介がありましたように、幾つかのイベントがあります。

第1期リニューアルオープンの内覧会とオープニングセレモニーはもう終わったということで、この後引き続き行われるのが、この後見ていただく企画展をやっております。

それから、記念式典が10月22日にあります。これは午前中に記念式典をやりまして、午後が国際シンポジウムになっております。一番後ろのチラシが国際シンポジウムのチラシなんですけれども、先ほど古代湖を研究していきますということで紹介させていただきましたが、今回は古代湖に焦点を当てましょうということで、「古代湖の魅力琵琶湖と世界の古代湖」という形で開かせていただきます。

それで、世界のうちの3つ、1つは古代湖の話ではないんですけども、バイカル湖、アフリカのマライ湖、それから中国の湖沼を研究している方に来ていただきまして、それぞれの古代湖のことを紹介していただくというものです。

それに重ねまして、当館の関係者のほうから、琵琶湖はこうなんですよということを紹介させていただいて、琵琶湖は古代湖だと言われても、何がどう古代湖なのか、よくわからないんですけども、世界の古代湖と比べることで、何かそういうイメージがつかれないかなということで予定しております。

その後は、「びわ博フェス2016 ありがとう交流会」ということで、11月12日・13日に行われます。

これは、このセミナー室とか、実習室、会議室なんかをブースになりまして、「はしかけ」とか「フィールドレポーター」とか、その他関わりのあるいろんな団体の人たちが交流をするブースをつくります。それから、アトリウムで企業のCSRポスタ

一の展示とか、ステージのほうでは演奏とか、そういうもので楽しく交流しましょうというものになります。

それ以外に、コンサートも予定しております、それが「湖を奏でるコンサート」ということで、これは音による展示だというふうに思っただけだと思います。県内の中高등학교などによりまして演奏会を開くということで、年末までいろいろ目白押しでやってまいります。

そういうことで報告に関しましては、以上で終わらせていただきたいと思います。

○山西会長：報告は以上ですね。ありがとうございました。

大変盛りだくさんの報告ですので、今回から協議会のメンバーになられた方はちょっと戸惑っておられるのではないかと思います、先ほどお話にもありましたように、博物館というのはいろんな顔を持っておりますので、報告していただくと思います、かなり多くなって、これでもきょうは、はしょって報告されていると思うんですけども、こういう形になりました。

きょうは、この後、リニューアルの展示、それから企画展を1時間ほど見せていただいて、その後、ディスカッションという予定にしております。展示のほうを見学しながら、この後のディスカッションで何をしゃべろうかということを考えていただいたらいいと思うんですけども、皆さん、それぞれ得意の分野、切り口でおっしゃっていただければいいかなというふうに思っておりますので、よろしく願います。

特に今の報告に対して、何か質問とか、どうしても先に聞いておきたいとかいうことがありましたら頂戴したいと思うんですけども。

どうぞ。

○佐久間委員：来館者数についてなんですが、来館者数というのは、どういうカウントなんでしょうか。

○山西会長：来館者のカウント方法について。

○磯間課長：来館者数といいますのは、観覧料をいただく方々のカウントプラス、例えば小中学生ですと、これは無料になりますので、そういう方々ですね。あと、観覧しなくて、琵琶湖博物館を利用されている方、例えばきょう来ていただいている委員の皆さん、10数名、これもカウントに入れさせていただいたりはしておるところでございます。全体から見るとわずかですが、カウントしております。出入りの業者さんとか、そういうのは当然含めないですけども、博物館に一定の目的を持って来られている方、これらを全てカウントできるようにしてございます。

○佐久間委員：レストラン利用だけでもカウントされているということですか。

- 磯間課長：レストラン利用もカウントされます。
- 佐久間委員：駐車場に車をとめて、芝生のところで遊ぶだけでは、カウントされていないということですか。
- 磯間課長：それはカウントされません。
- 佐久間委員：わかりました。ありがとうございます。
- 山西会長：よろしいですか。
- ほかにいかがでしょうか。
- それでは、見学のほうに移らせていただきたいと思いますので、案内、よろしく願いします。

#### 4 展示視察

- 亀田総括学芸員：そうしましたら、今回リニューアルしましたC展示室と水族展示室のご案内と、その後、企画展示室のほうをご案内させていただきたいと思います。
- ご準備ができましたら、こちら出口のほうにお越しいただけますでしょうか。
- (展示視察)

#### 5 討議

- 山西会長：それでは、再開させていただきたいと思います。
- 土井先生が所用で、きょうは3時半までということで退席されました。皆さんによりしくとのことでした。
- それでは、先ほど事務局のほうから報告、説明していただき、さらに展示のほうを視察させていただいたところですが、皆さん、いろいろご質問があるかと思います。
- ちょっと区切らせていただきたいと思いますけども、まず第1期リニューアル後の状況についてということで、新しい展示、企画展示の内容を含めまして、ご意見をいただきたいと思います。
- その後、先ほどご説明のありました第2期のプランについて、皆さんの関心の高いところだと思うんですけども、ご意見をいただきたいと思います。
- あと、それ以外の、特に研究、資料収集のことについて、引き続きご意見をいただきたいと思っています。
- では、まず第1期リニューアル以降の状況につきまして、どなたからでも結構ですので、ご感想、ご意見を承りたいと思います。
- 中川委員、お願いします。



- 中川委員：展示は非常に楽しませていただきまして、ありがとうございます。せっかくいい展示になったので、なるべく多くの方に見ていただけるといいと思うんですが、報告の中でも若干問題にされていましたが、いかんせん、不便なんですね。バスの便がふえたということなんですけれども、前から思っているんですが、浜大津あたりから船で来ることはできないんですか。
- 山西会長：船のアイデアも以前にありましたね。検討いただいているんじゃないかと思うんですけど。
- 藤村室長：以前は民間の定期航路がございました。ただ、やはり採算性であったり、いろいろな問題があって、現在は無い状態です。ただ、この夏休みのお盆の期間は特別に船を走らせていただいたということもありますし、またリニューアルによって来館者もふえてきておりますので、定期便か、臨時便になるかはわかりませんが、要望はしていきたいなというふうに思っております。
- 山西会長：ありがとうございます。
- 中川委員：船会社まで持ち込まなくても、例えば生きがいを探していらっしゃる引退された業者の方とかいらっしゃらないんですか。
- 山西会長：いかがですか。
- 藤村室長：ちょっとそこまではあれなんですけど、ただ、琵琶湖博物館が交流事業として、「漁師さんと行くエリ漁ツアー」というものをしておりまして、これは小さな20人ほど乗れる漁船なんですけれども、そうしたもので守山漁港の近くにありましてエリまで行って、魚を揚げるところを見ていただいたり、イベント的な取り組みとして、そういうものは実施をしております。
- 山西会長：よろしいですか。
- ほかにいかがでしょうか。
- 佐久間委員、どうぞ。
- 佐久間委員：すてきな展示を見させていただいて、質問なんですけど、C展示室についてなんですけど、以前は通路というか、順番ってあまり決められていなかったかなと思うんです。今度新しくなってから、必ず古民家を通るといような通路をつくられたと思うんですが、私が来させていただいたときに、子どもとかと何回も来ているので、すごい混乱したんですね。通路があるので、いつもここから抜けられていたのに、抜けられなかったとか、例えば私が子どもを探すときとかでも、順番どおりに通っていかないといけないので、探すのに時間がかかったというのがあって、旧を知っているからこそ混乱するというのを視野に置いて、何かもうちょっとやさしさをアピールできる方法はな

いかなというのを感じました。ありがとうございます。

○山西会長：そういう感想でもあり、もし何かいい方法があればということですが。

○亀田総括学芸員：どうもありがとうございます。

確かに以前の展示室は順路があるような、ないような、動線をあえてはつきりせずに、自由に見ていただくという形だったんですけども、今回の展示は琵琶湖から上流にさかのぼっていくというところを見ていただきたいというので、ある程度順路のとおりに戻っていただけるといいなということがあったのと、以前の展示では順路がわからないことを見ていただけない展示もありましたので、今回は順路がもう少しはつきりした展示になっています。

ただ、実はあちこちに抜け道もあります。夏休みなど、ちょっと人数が多かったので、そういった抜け道のところは、今、実はローピングして、かなり強制的に順路をつくっているところがあります。またこれからもう少し状況を見ながら、抜け道のところを通りやすいようにしたほうが見ていただきやすいのであれば、順路の検討をしていきたいと思っています。

こちらもせっかく作った展示なので、全部見ていただきたいなという思いもあり、ちょっとジレンマを感じながら、でも、なるべく心地よく見ていただけるような展示にしていきたいと思っています。ありがとうございます。

○佐久間委員：ありがとうございます。

○山西会長：閑散期には強制動線を緩和するとか、あるいはきめ細かいことをお願いできればと思います。

菊池委員、どうぞ。

○菊池委員：すてきな展示、ありがとうございました。

先ほど中川委員のバスの件で、私もすごく個人的なことも含めて、前から不思議だったのでお聞きしたかったんですけど、博物館の閉館が17時なんですけど、駅のほうに行くバスがちょうど4時台が一本もない状況だと思うんです。いつも、この協議会も終わってから30分待つか、もしくは早く出てしまわなきゃいけないという状況があって、どうしても遠方からお越しの方はバスを使われると思うので、もうちょっと博物館のあいている時間帯と、多少なりとも4時台が一本あるだけでも、ちょっと長くいられる方がふえるのかなと思うので、ご配慮いただけたらなというふうに思います。

あと、きょう、C展示室の最後のところに、子どもとか来館者の方がたくさん感想を残されていたと思うんですけども、あちらについては何か、例えばデータベースのような形で残されているのかということをお聞きしたかったんですけど、先ほどアンケート

の結果が前のほうで示されたと思うんですけど、ある意味、一番、生のアンケートの答えというか、こういう展示が印象に残ったとか、こんなことが好きだったから、また来たいということが、すごく素直な言葉で残されていて、せめてそういった言葉だけでもきちんと記録をされて、今後の展示に活かされていけばいいんじゃないかなというふうに思いました。感想です。

○山西会長：どうぞ。

○榎永係長：ありがとうございます。展示係の榎永です。

最後のオピニオンボードに関しましては、7月14日にリニューアルオープンしましてから、8月末に一回集めました。ファイルでやると、ファイル5冊分ぐらいになって、非常に分厚くなって、それは今、私のほうで持っていて、感想であったり、改善点であったり、そういうのを分類して、館内でとりあえず見ていこうかなと思っています。

今後の発表についても、今、委員がおっしゃったように、何か考えていきたいなと思っております、ありがとうございます。

○山西会長：バスについては要望されていると思うんですけども、そういうピンポイントのこの時間帯に何とかという形での要望というのはされているんですか。

○藤村室長：リニューアルによって来館者もふえてきているということで、今後要望を続けていきたいなと思っておりますが、具体的な時間帯については、まだ決められておりませんので、先ほどのご意見、閉館直後に利用できるような時間帯も視野に入れて、要望していきたいなというふうに思っております。

○山西会長：ほかにいかがでしょうか。

田淵委員、どうぞ。

○田淵委員：どうもありがとうございました。田淵と申します。

何点かございます。午前中、孫を連れてぐるっと回らせてもらって、リニューアルに関わらせてもらったので、とてもいいリニューアルになったなと、すごく思ったんですけども、特にペットボトルのアート、天井につつてある部分だとか、壁に何気ないお魚の絵が描いてあったりとか、切り抜かれてのぞき窓になっているところとか、孫は、足元のくるっと切り抜いた水槽というのをすごく喜んでいたので、とても細かな配慮がなされていて、よかったなと思っています。

ただ、ここからはちょっと文句なんですけど、すみません。途中でちょっと質問もさせてもらったんですが、日ごろ、学芸員さんはどのようなお仕事をなさっているんですかということをお聞かせしてもらったら、もちろん研究とか現場に出られてというのもお仕事の一つかと思うんですけど、せっかく円筒形の水槽で、トンネル状のところにナマズ

が横たわっているんですが、それを全然知らなければ、素通りしてしまうブースって、幾つもあるんですね。それを、”もりあげ隊”というか、学芸員の方が、「あっ、ここにナマズがいるわ」みたいな感じで、大勢の団体さんが来られたときは特にですけれども、そんな声をかけてあげるような、ソフト対応も少し考えてもらえたらなと思って、もったいなと思いました。それがもしできなかつたら、表示をつけて、「もうちょっとしゃがんで見てごらん」みたいな感じの表示をしてあげると、そしたら、「しゃがんで何が見えるの。ああ、見える見える」みたいな感じで、一人が見つけたら、ほかの子どもさんもすごく目にとまると思うので、そういうようなものを少し加えてもらえたらなと思いました。

それと、同じような観点なんですけど、私もアザラシを見せたくて来たんですけども、とてもゆるキャラ効果はすごく合って、客引きにはなると思うんですけども、見ていられるだけでは、上に行ったり、下に行ったり、泳いでいるだけという感じですよ。前についていたときに、ポツンと穴が1個なのが雄で、3つついているのが雌というように教えてもらったので、そういうようなことを少し、周りに黒い壁がちょうどあったので、そこに書いてあげるとか、それとかうちの孫なんかだったら、アザラシが立ったら、身長はこんななんだよというようなことを黒い壁に書いておいてあげたら、一緒に並んで写メを撮るとか、アザラシをそういうふうな目で見るとか、みたいなことができるかなと思いました。

それと、アザラシの部分でお気づきになったかと思うんですが、車椅子スペースというのがあったんですね。私は日ごろ、障害者の方々とお出会いしてしまっているのは、やっぱり優遇というか、「こちらへどうぞ」と言われて喜ぶ方は昨今少ないというか、それはむしろ小学生とかが来たら、受付のところで、「きょうは車椅子の方もたくさんお見えですので、先生、共生社会の時代ですので、ちょっと声かけをお願いしますね」みたいな感じで、ソフト的なことで対応する。車椅子スペースを設けるのではなくて、順番に見ようねということ、それこそ学芸員さんに入ってもらおうとか、先生にそういう声をかけてもらおうとかのほうがいいんじゃないかなと思います。車椅子スペースというのをわざわざ設けるのは、私は今の時代、ちょっとナンセンスかなと思って見ていました。

それと、ザリガニのところの手洗いなんですけども、孫が手を洗うのに、とっても中途半端な高さなんです。あれでも自動で出てくる水道なら十分なんですけども、あそこに限って、レバーを上げる水道なので、あれは届かないんですね。なので、もし余力があつて、そこをリニューアルできるようだったら、自動水栓にする。槽を低くするよ

りは、自動水栓にするほうが早いのかなと思います。

もう一つ、最後は、「ふなずし」のところですけども、視点の違いにおいがかがせるということで、すごくきれいなものばかりを見せていたにもかかわらず、あんな臭いものというブースで、すごくいい観点だと思うんですけども、ただ、小学生の子どもたちが、「あっ、クサっ、クサっ」と言って終わってしまったのは、もったいないなと思って、あれはやっぱり滋賀県の食文化、保存食で、家庭家庭で違った味が、違ったにおいがある、においを選ぶのは大変だったんですよという話もあったんですけども、そういう食文化の一つのふなずしなんだよというので、横にシジミだとか、丁稚羊羹とか、何を並べたらいいかがわかりませんが、家庭家庭でつくられてきたそういうような食文化、今はちょっとなくなりつつあるけども、そういうものなんだよというのもやっぱり子どもたちに教えてあげてほしいなと思います。

そのぐらいです。いろいろ言いましたが、失礼いたします。すみません。

○山西会長：ありがとうございます。

4点あったかなと思うんですけども、それぞれ、担当の方がいらっしゃると思いますが。

○桑原部長：多くが水族のことだと思いますので、私のほうから。

まず、オオナマズのところなんですけれども、ちょっと今後、何か工夫はしていきたいと思います。どうしてもあそこは暗いものですから。それと、意外とあそこは壁がないんです。それで、立て看を立てたりすると、逆に危なくなったりすることもある、今のところは表示の手がないというか……。

○田渕委員：こういうのはガラスにできないんですか。

○桑原部長：水槽のガラスにですか。

○田渕委員：はい。ラインだけつけておいて、「ここまでしゃがんでごらん」みたいな。

○桑原部長：そういう手もちょっと今後考えていきたいと思います。展示の意図というものもあって、なかなか難しいところはあるんですけども、ただ、私らも定期的に展示の点検で回ったりはします。そういうときには、お客さんに声かけをしたりとかというのは、なるべくするようにはしています。あとは、ナマズの性質にもよるので、実は去年、入れかわってしまったんですが、その前に入っていたペアというのは非常にいい感じで、片方は巣に入りながら、片方は泳ぎ回るといって、これは10年ぐらい、あの水槽に入っていたんです。ただ、そういうナマズって非常に少ないので、今は2匹入っているんですけども、巣に入っているのと、上に浮いているのと、何かうまい表示を思いつけば、何か考えていきたいと思います。

それも実は博物館の開館当初からの課題で、何とかしたいということできいろいろやっ  
てはきたんですけども、生き物のことで、なかなか思いどおりには動いてくれない。それ  
で、ああいう展示なので、表示もちょっとうまくいなくて、今、ガラスにということ  
もあつたんですけども、ナマズが入ってしまうと、今度それが視野を限ってしまう  
ことにもなりかねないので、その辺がなかなか難しいかなというところがあります。こ  
れからまた、もう少し検討していきたいと思います。

もう一つ、アザラシのところなんですけども、田淵委員のおっしゃるとおりだと思う  
んです。やっぱりキャラクターとして非常に人気があつて、あれを目当てにして来られ  
る来館者も非常に多いんですけども、少なくとも今回、リニューアルの展示をつくった  
スタンスとしては、あれはあくまでバイカル湖の固有種の一つなんですよということ  
を紹介していきたい。ですから、その前のバイカル湖の魚と基本的には同じレベルで出し  
たいなということで、そこら辺はパネルもそういう感じで作ってきたというのもある  
んです。ただ、とはいうもののところにはありますので、アミューズメント性も必  
要かなと思いますので、これからちょっと考えていきたいと思います。

実は入口のところ、今、マヤマックスさんの展示をやっていますけども、あそこにア  
ザラシの写真切り抜きパネルを置いて、結構あそこが写真撮影の場所になったりしてい  
ます。そういう工夫は多少はしています。ということで、今後の課題ということです。

もう一つ、トイレの件は後からまた藤村のほうからあると思うんですけども、ふなず  
しのおいのところなんですけども、実はにおいだけではなくて、レプリカなんです  
けども、ふなずしであったり、ふなずしのつくり方であったり展示もあわせてやって  
いるんです。現場でも少しお話しさせていただきましたけども、やっぱり琵琶湖の魚は季  
節によって変わりますので、売られている魚も変えながら、ショーケースに入れている  
湖魚料理も季節に合わせて変えながら、ふなずしの展示の一環として、あのおいを出  
しているというのをさせていただいているつもりです。ただ、どうしてもああいうのっ  
てインパクトが強いので、そればかり気になってしまいがちというのはあるので、も  
う少しその周りの展示をどういうふうにしていくかというのは、これからです。特にあ  
そこら辺はさわりようがありますので、工夫していきたいと思います。ありがとうございました。

もう一つ、車椅子スペースの件なんですけども、これ実は、前回のこの会議でしたか、あ  
のときは3月にあつたんですけども、あのとき来ていただいた山本（尚三郎）委員から、  
特にアラザシのところは人が多くなるだろう、そうなったときに、何もないと車椅子で  
来た人はなかなか見られないんじゃないかというご意見がありました。とりあえずは優

先座席というわけではないんですけども、隙間をあけて、そういう方に見ていただきやすいようなスペースを何とかつくりたいという思いがありました。ただ、当初、いろいろ考えていたんですけども、なかなか費用的な問題もあって難しく、とりあえず今みたいなローピングで囲いをつくって、そこを利用していただこうという形にしました。

私も開館以来、気にして、ずっと見ているんですけども、頻度をとっているわけではないんですけども、割とそこを利用していただけている場合が見受けられたので、よっぽど人が多くて危ないというとき以外は、とりあえずちょっと置いておこうかなど。ただ、あのままですと、特にこれから学校・団体がふえてきたときに、引っかかりして、ちょっと危ないこともあるんです。

先ほど藤村の説明の中にもありましたように、今は、そういうスペースがあるんだよということを皆さんにお知らせしながら、ちょっと譲り合ってもらえるような形ということで、タイルカーペットをつくって、そういう車椅子スペースで、皆さんにそういうことをアピールしていけるような、それであるべく危なくないようなということをちょっと考えていきたいなど、今は思っているところです。

○藤村室長：この車椅子スペースにつきましては、こうしたハード面の整備に加えて、ソフト的な対応として、例えば展示交流員がご案内をしたり、また繁忙期は、我々職員も展示室に出向いてお客さんの案内をしておりますが、車椅子の方がお見えになった場合は、どうぞということで、間に入ってもらったりとか、そういった対応もしております。

それと、先ほどの水槽の手洗いの件ですけども、それはトイレですか。ふれあい水槽ですか。

○田淵委員：ふれあい水槽です。

○藤村室長：ふれあい水槽ですね。ふれあい水槽の触った後に手を洗うところですね。

○桑原部長：すみません、最近、だいぶ耳が遠くなっているのです……。

ふれあい水槽ですが、実はあれは開館当初そのままなんです。あれを改修しようとなると、配管その他、全部触らないといけない。壁も実はパーテーションみたいな壁なので、少なくとも今回のリニューアルでは、あそこの壁の塗りかえをただけという状況なので、今後、方法を考えながら進めていきたいなと思います。

一応、高いところ、段差一つ低いところというのはつくってはありますけれども、上のコックがひねる形になっているんですね。あれもほとんどのものが開館当初のままで、かなり特殊なものなんです。それでちょっと使いにくい、修繕しにくいというのがあって、今回のリニューアルには間に合わなかったですけども、今後、うまい手をち

よっと考えていきたいなと思いますので、よろしくお願いします。

○山西会長：ありがとうございます。

この会議は一応4時半までという予告なんですけど、もう4時半になりそうなんですけども、多分5時ごろまで延びるかなと思うんですけど、ご予約のある方、ご都合の悪い方がいらっしやいましたら、優先的に受け付けたいと思いますが、皆さん、延長してもよろしいでしょうか。

では、ちょっと時間を延ばさせていただきます。回答のほうも手短かにお願いします。

では、引き続き、中坊委員、どうぞ。

○中坊委員：C展示室、新しくなって楽しませていただきました。かなり努力されたなというのがあって、本当に目線を下げる努力をされていたので、前のちょっとくすんだような水槽と違って、いいなという観点で見させてもらいました。

それで、改良のしようのないようなところのコメントは控えさせていただきます、私、魚類学者ですから、魚しかわからないので、実現可能なところで、イサザのところがいささかあの水槽が大きいのに、小さいのがパラパラパラとあって、あれ、ぱっと見たら、何もいないんじゃないかということがありますし、実際、イサザってあんなんじゃないなくて、もっと群れているんですね。だから、やっぱり数をふやしていただく努力をしてほしいなと思います。あれ、とるのは難しいということもあるんですけど、そこをちょっと努力をしていただいて、あと、ヨシノボリなんですけども、琵琶湖に関係のないヨシノボリがたしかいたと思うんですね。アオバラだったかな。

琵琶湖にはビワヨシノボリというれっきとした固有種がいます。あれは琵琶湖しかいませんので、今、ある方が新種として記載を進められているヨシノボリですけども、あれの水槽をつくってほしいなと。あれもちょっと底から浮く性質がありますので、琵琶湖のきめの細かい展示がほしいなと思います。ほんのちょっとしたことだと思うんですけども、これは実現してもらえるとと思うので、努力をいただければと思います。

あまり過去のことを言ってもしょうがないので、次の展示のところに樹冠トレイルというのがありますね。これは僕は非常におもしろいなと思うんですけども、京大の生態チームがインドネシアで地上50メートルとかの高さで、熱帯雨林の高いところの生物層の調査を井上（民二）さんという教授がやられたんですが、井上さんは飛行機事故で亡くなられましたけども、今でもやっているんですかね。

○篠原館長：やっていると思いますよ。

○中坊委員：やっているんですね。あれは画期的なことなんです。地上の生態系と全く違うものが樹冠にあるということなんですけども、この琵琶湖のところが、ひょっと



してそんなものがあればおもしろいなというのもあって、わずかな地上ですけども、その生物層を何とかどこかに展示として再現してもらえないかなという、要は生態系というのは地面の上だけじゃなく、上にもあるということを示していただくと、この樹冠トレイルの意味が生きるかなと。せっかくいろいろつくるんですから。これ、放っておけば、ただのパノラマ展示になってしまって、琵琶湖をちょっと高いところから見て、エリとかを見ようというふうになってしまうと思うんですけども、そうではなくて、せっかく樹冠という、自然に近づくのであれば、ちょっとアカデミックな意味もつけてほしいなと、これは本当に希望です。希望ですけども、今からだったから間に合うだろうと思います。これが半分ぐらい進んでしまうと、恐らく後戻りがきかなくなりますので、そこのところの希望をちょっと述べさせていただきました。

○山西会長：ありがとうございます。

第2期の部分に入っていただいても結構ですので、どうぞお願いします。今のご意見に対して何かありましたら。

○桑原部長：じゃ、先のイサザとビワヨシノボリのことで。まずビワヨシノボリですが、展示しています。

○中坊委員：してる。

○桑原部長：しています。

○中坊委員：ごめんなさい。

○桑原部長：私、時間の関係で、飛ばしてしまいましたけれども、外来種の対面にビワヨシノボリの水槽、ゴリの紹介のところで展示していますので、よろしくお願いします。

○中坊委員：すみません、見逃しました。

○桑原部長：イサザのほうは、これからもうちちょっと技術開発を進める必要があると思います。それは何とか頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

○林学芸員：樹冠トレイルを担当しています林と申します。

中坊先生の今のコメントは、研究者の私としては何か背中を押していただいた感じです。樹冠トレイルは、一般向けにはパノラマ展示、琵琶湖に近づいて、琵琶湖の景色が楽しめますよということを行っていますけども、私としてはもちろんそれだけじゃなくて、むしろそれ以上に、樹冠という生態系、環境というものを身近に見ていただくことで、植物の芽吹きであるとか、開花であるとか、そこに来る昆虫層、鳥の生態系、そういったものを含めて、ふだん見ることができないところの生態系を見て、楽しんで、知ってもらいたいという思いが強くなりますので、パネルであるとか、いろいろな工夫をする中で、今、中坊先生からコメントいただいたような点をできる限り取り入れていき

たいと思いますし、今、屋外の樹冠トレイルに関しては、はしかげさんという地域の参加者の方々と一緒にガイドツアーをやったり、いろんなイベントを考えたりというようなソフト的なところも利用者の人と一緒にいろいろ考えて進めているところですので、そういうイベント的なものでも、今見ていただいたような樹冠を間近に見られる楽しさというのを伝えていきたいなと思っております。

○山西会長：ありがとうございます。

樹冠トレイルのところは有料ゾーンになるんですか、無料ゾーンになるんですか。

○林学芸員：ちょっとまだ、その辺は検討中ではありますが、無料ゾーンになるかなと。

有料として区切るのは、なかなか物理的に難しいと思いますので、無料ゾーンとして、今のところは考えています。

○山西会長：わかりました。

ほかの方。

北島委員、どうぞ。

○北島委員：失礼します。2点ぐらい感想みたいなものを話させていただきたいと思います。

リニューアルをして、子どもたちの視点からも学習できるようにしてくださっているのは、すごくありがたいなと思っています。

私ごとですが、今年の夏に、ドイツからホームステイを受け入れて、私、草津に住んでいますので、どこに案内しようかなと思って、一番に琵琶湖博物館に来ました。8月の下旬です。そこで滋賀のこととか、琵琶湖のことを学習してもらったかなと思います。勉強不足で、アプリ等で外国語の表記なり、案内があったということで、そのときは知らなかったんですけども、このフロアガイドですか、まだ日本語表記だけで、外国語のものがまだないのかなと思ったので、作成いただいたりとか、特にこれから日本の人口が減る中で、外国人をターゲットにすることも必要かなと思っています。大手旅行社とか、外国との連携とかもされるといいかなということを思っていました。一般的に、日本語の表記は大きくなって、外国語は小さいというのがあるので、どこまでしたらいいかわかりませんが、また今後、考えていただけるといいかなと思います。

あと、学校の立場ということで、滋賀県ではいろんな体験活動を進めるということで、5年生で、「うみのこ」「やまのこ」「たんぼのこ」というのをやっています。本校でも今週、たんぼの稲刈りであったり、「やまのこ」で伐採をしたりしたんですけども、琵琶湖博のほうにも8割ぐらいですか、小学校が来ているということで、「うみのこ」「やまのこ」は強制的と言うとおかしいですけども、財政的な支援があります。ここは本当

に必要で、ここで学習したいというところで、みずからたくさんの方が来ています。まさしく「びわはくのこ」という意味でも、ここで学習する機会というのはすごく大切ななということを考えています。

その中で、先ほどバスの話もありましたけども、多分ほとんどは貸し切りバスで来るんでしょうけど、草津の場合でしたら、いわゆる乗り合いバスとかで来るのが多くて、学校のほうも増便というか、そのときに定期便にもう一台足してくださいという話はしています。なかなか定期便をふやすというのは難しいかもわからないんですけども、校外学習で来たときに、バス会社に、バスをもう一台ふやすとかいう形での要望等を学校でもしていますが、またそういうことを要望していただくとありがたいかなということを考えています。

また、先ほど言いました「たんぼのこ」の前後で、琵琶博の연구원さんの方に来ていただいて、学校で学習するという出前講座もしてくださって、本当にありがたく思っていますし、そういうあたりを、ほかの課との連携で、パッケージとして琵琶博でもこんなことをやっているということをどんどんアピールいただくとありがたいです。小学校の校長の研修会にも説明に来ていただいたりとか、去年は近畿の小学校長会には館長さんに講演もいただいて、アピールいただいたので、そういうところもどんどん広げていきたいなということを考えていますので、また学校、教育へのサポートをしていただくと、ありがたいと思っています。

以上です。

○山西会長：パンフレットについては、いかがでしょうか。

○磯間課長：リーフレットにつきましては、今は日本語だけで提供させてもらっていますが、ただいま翻訳中のごさいますて、幾つかの言語でご提供させていただきたいと考えているところのごさいます。

○山西会長：ありがとうございます。

これらのサポートも引き続き、よろしくお願ひします。

ほかに、いかがでしょうか。

横地委員、お願ひします。

○横地委員：きょう初めて参加させてもらって、こんな活発な意見とかが出て、すごくびっくりしております。ちょっと私から、企業側から一言だけ申し上げます。

最近は、いい会社というのは、利益とか、そういったものだけでは、いい会社ということとは言われません。昨今は、CSR（企業の社会的責任）の活動、こういったところを一生懸命やっているところはいい会社として、将来的にも企業が発展していくという

ことが言われており、我々もこういったCSR活動、中でも今回、博物館に関係する生物多様性の活動とか、そういったところを一生懸命やっているつもりでいるんです。

それで、今、研究というところの一つのテーマがありまして、それぞれいろんな研究があると思うんですけども、企業側として、生物多様性の活動をやらなければいけないということはわかっているんですけども、何をやったらいいのかがわからない状態、まだ手探り状態でいろんな活動をやっているというのが現状です。だから、研究を行う上で、何か企業がお手伝いできることがないのかなと。そういったところでリーダーシップをとってもらって、企業を集めて何かの調査、それぞれの地区に企業があるわけですので、そういったネットワークを使って何かやったほうが、より早い研究になったりもできるので、何かお手伝いできる場所がないかな、そういったところもちょっとこれから考えていただいて、リーダーシップをとっていただいたらいいのかなと思いました。ありがとうございます。

○山西会長：ありがとうございます。

何か館のほうから考えられたことはございますか。

○篠原館長：どうもありがとうございました。

その件につきましては、実は、「湖南企業いきもの応援団」というのが草津のほうにありまして、8つぐらいかな、小さな会社なんですけれども、そこが生物多様性のことについて非常に関心が高く、狼川の調査を彼らが自主的にやっていて、琵琶湖博物館がそれに対して少し指導したり、あるいはどうしたことを調査したらいいのかというようなことを応援に行っていてやっていますので、もしダイフクさんでそういうことをおやりになるんだったら、幾らでも提供できると思いますので、一緒に何かすると。

「湖南企業いきもの応援団」も大変活発に動いていて、環境省の何とかという賞（※生物多様性アクション大賞）を受賞されて、この間、受賞記念のパーティーがあって、呼ばれて行ってきましたけれども、今度はもう少し細かい調査もされたらいいんじゃないかということで、琵琶湖博物館はマイクロアクアリウムみたいな微生物のこともやっているんで、微小の目に見えないようなものまで調べていったら、こんなものが出てきた、あんなものが出てきたということがわかるので、これはちょっと狙いどころで、また賞がとれるんじゃないですかと言っておきましたけれども。

○横地委員：企業は受賞とかそういうのに弱いですから。

○篠原館長：ぜひうちのほうに来ていただいて、うちの学芸の人たちに相談していただければ、新しいことができるかなというふうに思います。

○横地委員：我々、1社では限界を感じているんですね。やっぱり滋賀県のいろんな企業

の連合体みたいなものでやらないと、実際の生物の保全であったり、希少種の保全であったり、そういったことができないんじゃないかなと思うんです。我々の敷地内だけでやっていたら、あかんかなと。何かそんな感じがします。

○篠原館長：わかりました。つくっていただいなら、いつでも出かけますので、よろしくお願ひします。

○横地委員：よろしくお願ひします。

○山西会長：ありがとうございます。

橋詰委員、お願ひします。

○橋詰委員：きょうに至るまでに一度行っていこうと思って、夏休みにたくさん人が来ていることを知りながら、勇気を出して琵琶博に足を踏み入れさせていただいたんですけど、本当ににぎわっていて、みんな楽しそうでした。せっかくなので、展示もなんですけど、展示を見ている人たちを見ようと思って観察してみることにしました。その報告をさせていただきます。

1つは、まず駐車場に車を置いて、さあ、行こうかなと思ったら、皆さん、歩いている間に、「ああ、遠いな」「まだやな、遠いな」という声が聞こえてきました。中にはクイズなんかもあって、私は自然観察をしながら歩きましたので、楽しかったですが、来館者が設置されたクイズに気づかなかったか、あのアプローチを楽しめてないのかなと思いました。よくよく見ると、獣道ならぬ人間の道がショートカットでついているところを見ても、残念だなと思ったので、できましたら、外の樹冠トレイルのところにつながっていただくとか、あの長い道を楽しい道に変えていただけたらなと思いました。

それと、ヤナを見ている方たちをずっと眺めていたんですけども、小さい子も見ているんですが、意外と30代、40代ぐらいお父さんが物すごく興味津々で見えいらして、何か不思議だなと思って見ていて、いろいろ会話なんかを聞いていると、釣りをされる方が、「あっ、こういうことなのか」「こういう習性を持っているのか」というような言葉が聞かれたので、そういう目で見られているんだなというふうに思いました。

そこで、例えば外来魚が今また少しふえてきている理由が、釣りをする人がちょっと減ってきているみたいな話をちらっと聞いたんですけども、ブルーギル、ブラックバスなんかのところに、県の外来生物への対応（駆除）などなんかもちょっと入れながら、アピールしていただけないかなと思いました。

それと同じように、ザリガニなんですけども、ザリガニは子どもたちにとって、とっても親しみ深いですし、触れますし、丈夫ですし、子どもたちにとって親しみのある生き物としての触れ合いを持てる対象なんですけども、やっぱり外来種、侵略的外来種と言う

んですか、そういう面についても、やっぱりどこかでちょっと触れていただけたらと。非常に難しいと思うんですけども、触れていただけたらなというふうに思いました。

それから、ネットなんかをちょっと調べてみましたら、すごくみんな評価がよくて、うれしいなと思って見ていたんですが、「子どもを連れて一日見られます、楽しめます、ボリュームもあっていいです。だけど、休むスペースがあまりなくて、残念です」というのが何個か見つかって、確かに私、実はきょう、加藤委員と一緒に、お昼を食べてみましょうかということになって、レストランを利用させていただいたんですが、やっぱりスペースがちょっと少ないです。予約席が半分ぐらいあったので、だいぶ待たなきゃいけなかったりして、できたら、レストランのほうのリニューアルがあったときに、例えば2階のスペースに売店を置いていただいて、ここだけで召し上がってくださいというものでいいですし、もう少し軽食でもとれるところがあれば、小さいお子さんを連れて方も長居をしていただけるんじゃないかなと思いました。

○山西会長：ありがとうございます。

館のほうから何かございますか。

レストランは第2期計画でまた刷新されるということですので。

○大久保学芸員：レストランのリニューアルを担当しています大久保と申します。貴重なご意見、ありがとうございます。

レストランなんですが、すごく大きな課題として、夏休み中や土日の繁忙期はめちゃくちゃ混む。逆に、閑散期はお客さんが来なくて赤字になってしまって、それが悩みでして、そういった中で2階の運用も含めてどういうふうに運用していくかということを考える必要があるかなということで、今、計画しているところです。軽食についても検討させていただいて、そのあたりの不便を少しでも緩和できるようにしたいと思います。

○山西会長：よろしいでしょうか。

ほかの方、いかがでしょうか。

鹿田委員、お願いします。

○鹿田委員：特に回答は結構ですけれども、意見として2点だけ言わせていただきます。

1つ目は、子どもたちは多分興味の向くままに、いろんなものを見るところなんですけれども、ついでに親とか大人にしては、背景というか、正しい見方をどうしても知りたい。どう見たらいいんだろうとか、これはどういう意図でつくってあるんだろうというのを知りたいと思うのに、手元にあるのがこのパンフレットだけではちょっと心細いので、もう少し例えば、ここはこのぐらいの時代で、このぐらいの Spann を見てくださいますとか、川上から川下に向かって展示がありますよとか、意図されているところを何か

手元で見られたらいいなと思いました。

展示を見ても、そのときのことはわかるんですけども、全体のC展示室のこのエリアはこういう意図で、ここまで見てください、ここからはこういうものですよというのがあって、親としてもそれを言えたりするので、そういった意味で、今はこれが一つ一つの説明になっていますけども、皆さんがつくられた意図がわかるようなものが手元にあるといいなと思います。もしくは少しお金を払ってでもいいので、解説本みたいなものがあるといいなと思いました。これが1点です。

もう1つは、子どもを連れて遊びに来るのは、大体幼稚園から小学校の低学年ぐらいが多いんですが、とはいっても、子どもたちがどんどん大きくなりまして、スポーツとか芸術は、スポ少とかいろんな集りがあるんですが、こういう生物とか科学的なことに興味を持った子どもさんが行くところって、あまりないんですね。そういった意味で、今後、大人のディスカバリーがふえるということですので、子どもから大人にかかるあたりの子どもたちの学芸的な興味も含めて一緒に学べるような、部活動のような、そんな場所になったらいいなと、希望的に思いました。

以上、2点です。

○山西会長：ありがとうございます。

展示の意図とか、そういうことをわかっていただく仕掛けはなかったですか。

○芳賀課長：音声ガイドはそのためにつくったという側面があります。ただ、音声ガイドを聞いている間に、子どもがさあーっと向こうへ行ってしまったらどうしようかという問題は確かにあると思います。

それとは別に、外国人向けで、今、うちのスミス学芸員が英語版の掌サイズの簡略なガイドをつくりかけていますので、英語版が先で、日本語版が後ということになりますが、そういったものも配布できるようになればということは考えております。

○山西会長：追々また、いろいろと作成していただければと思います。

ほかの方、いかがでしょうか。

佐久間委員。

○佐久間委員：第2期のことでよろしいですか。

○山西会長：はい、2期でも結構です。

○佐久間委員：ありがとうございます。佐久間です。

今、鹿田さんがおっしゃっていただいたようなクラブ的なものことですが、私は大津市に暮らしておりますが、大津市さんが「大津市少年少女発明クラブ」というのをされていて、いつも定員があふれるほどの応募者なんですね。やっぱり需要はある

と思うんです。それを学びたいという需要はあると思うので、琵琶湖博物館に来たら、こんな知識が得られるんだよ、こういう子が育っていくんだよという、クラブのような、塾のような、そういうものがあったら、子どもを育てていけるかなというのを私も思っていたんです。

それで、きょう、来させていただいたら、それも提案してみようと思っていたんですが、これから来館者数について考えていくときに、新しい人に来てもらうだけではなく、いかにリピートしていただく方をふやすかだと思うんですね。琵琶湖博物館のファンをどれだけふやすかが今後にかかってくると思うんです。そのファンをふやすために、先ほどC展示室のときに私が質問して答えていただいたことで、何回か来た人だけ抜け道がわかるという、心をくすぐられるような作戦をたてていただいたり、回数来たからこそ知れる、何かちょっとした小細工と言ってしまう言葉は悪いんですけども、そういうのをしていただけるとうれしかなと思うのが、これからの発展につながると思って提案させていただきます。

あと、2期のことに関してもなんですが、ディスカバリールームについて、私なりの考えをちょっと述べさせていただきたいんですが、親と子が一緒に遊べる空間というのがちょっと引っかけたんですね。親子の交流をつくる場を設けるというのはとても大切なんですが、この広い琵琶湖博物館を訪れて、親がディスカバリールームで思うのは、「あっ、やっと座れる」なんですよ。子どもが夢中になれるものを用意していただいているので、親はほっと一息、一緒に来た友達と少しお話ができる時間なんですね。そういう人もいるというのを考慮いただきたい。親と一緒にしか遊べないとなると、何回も来たいと思わないんですよ。ここに来たら、子どもたちが思いっきり夢中になって遊んでくれる場があると、親は多分何回も来るんですよ。それが帰帆島公園とかを見てもらってもわかると思うんですけど、親と一緒にしか遊べない遊具しかなかったら、あんな来場者はないと思うんですね。子どもが夢中になって遊べる空間があるというのが大事かなと思います。親の解説がないと理解ができないとか、遊べないとか、学べないというのではなく、子どもを夢中にさせる何かきっかけをつくっていただけると嬉しいと思いました。

橋詰委員がおっしゃった休憩スペースもそうなんですが、子連れで夏休みとかに来るときは、大体お弁当持ちで来ます。お弁当持ちで来て、食べられる場所は限られています。雨が降っていたら、外では非常に食べにくいですし、今、カフェのある2階部分も、残念ながら、場所取りをしている方とかが多くて、本当、使って見えなかったら、ごめんなさいと言って使わせていただくぐらい、長いことそこで場所取りをされている方も



見えますし、本当に椅子の数が少なく、幼児でしたら、1個の椅子でいいわと、膝に乗せて食べたりもしています。それだけでちょっと窮屈感を感じるというのは、子育て世代には非常に大きいポイントだと思うので、これから博物館だけではなく、外もつくっていかれるということなので、お弁当を食べられるスペースをつくっていただけたらと思います。長くなって申しわけないです。

以上です。

○山西会長：大変ごもっとなご意見だと思いますし、ぜひ2期のリニューアルの中に盛り込んでいただきたいと思いますのですが、館のほうから何かアイデアとかございますか。

○榊永係長：ありがとうございます。

休憩スペースに関しましては、委員が最後におっしゃったように、表のほうに樹冠トレイルをつくりまして、表のほうにもちょっとベンチをふやしていきまして、表のほうでお弁当を食べたり、休憩していただける空間をつくっていきたいと思っています。

ディスカバリールームの話はちょっと難しい話で、我々としては本当に逆方向で、親と子どもと一緒に何かをしてもらおうということを考えております。というのは、休憩するだけなら、表のスペースでも全然構わないので、せっかく博物館に来たなら、一緒に何かを楽しんでもらおうかなと思っています。

先ほどの図録の話でもありましたように、親が見て、子どもに説明できるような教科書的なものがあればいいというお話もあったように、ディスカバリールームでも、お母さんとかお父さんとかが何かを見て、子どもと一緒に会話をしながら学んでいこうというような仕組みを考えていこうと思っています。逆に座っているのがもったいなくなって、お母さんも一緒に遊んでいこうというような感じになるような空間にしていきたいなというふうに考えております。

○山西会長：ありがとうございます。

もう時間が来てしまいましたが、どうしてもこれだけは言っておきたいということがありましたら。

下澤委員、どうぞ。

○下澤委員：せっかくですので、3点簡潔に申し上げます。

1点目は、本校は9年間、カヤックで長浜と今津を往復するという体験活動をしています。湖面を体感して進めている総合的な学習の中でやっているんですが、その都度、琵琶湖博物館のほうには、どんなふうな勉強の仕方ができるだろうと、いろんなアドバイスをいただいて、水深を図る装置とか、竹生島の反対側から見たら、こんなカワウが見えますよとか、いろいろ相談に乗っていただいた結果で進めています。そのときも先

に琵琶博を見に来て、その後にそれを実施したということもあって、これからもそれぞれ、琵琶湖の周辺で体験活動などをする小学校、中学校のアドバイザーであっていただければというふうに思います。感謝も含めてです。

2点目は、ここに来たときはどうしても学校関係者としては、大勢の生徒を、ほかに来られているお客さんとともに進めるので、いろんな意味で心配があります。人との接触であったり、あらぬ言葉でほかの方を傷つけるようなことがあったり、さっきもふなずしを臭いと言う生徒の話がありましたけど、いろいろなことを心配します。

それから、どこまで触っていいのかというところも、事前にはいろいろな決まりはお教えいただいて、それをもとに話はするんですが、目の前に、ここまで触れちゃだめだというようなことがもう少しあるといいなと。ササのところなんか、触っていいものかどうとか、何でできているんだろうとか、知的好奇心があればあるほど生徒は触りますので、そういったところももう少しあったほうがいいかなと思います。

3点目は、琵琶湖博物館は県内小学校の7割が利用しているということがクローズアップされているんですが、中学校は悪くて言えなかったのか、中学校がどれぐらい利用されているかということもちょっとアピールいただけると、持って帰って、ほかの理科部会とか、いろんなところでも言えますので、それもお教えいただければと思います。この点は教えていただけるとありがたいと思います。

以上です。ありがとうございました。

- 山西会長：中学校の利用に関してですけれども、館のほうからお願いします。
- 芳賀課長：県内の中学校の利用率は、平成27年度で、ちょっと低めですけれども、21%ですね。小学校に比べると、やはり利用率は落ちてしまう傾向はあります。
- 下澤委員：パーセンテージで言うと、ちょっと少ないように感じますが、実際は……。
- 芳賀課長：逆に、県外の中学校にはすごく使われるケースが多くて、ひょっとすると中学校は遠くへ行きたがるんじゃないだろうかというのを考えたりするんですけども。距離よりも内容でうちを選んでいただけると、ありがたいなと思ったりします。
- 下澤委員：ありがとうございました。
- 山西会長：中川委員、最後に。
- 中川委員：研究の話でもいいですか。
- 山西会長：研究面でお願いします。
- 中川委員：ぎりぎりの時間になっちゃって、すみません。研究は研究で分けて話をしようかと思っていたので、タイミングを逃しました。

きょうは、リニューアル直後なので、展示の話がメインになるのは当然だと思うし、

それでいいと思うんですけれども、ご説明いただいた中で、やっぱり研究は琵琶博の根幹であるという言葉が何度かあって、それは本当にそうだと思うんです。今は情報があふれていますから、インターネットを調べれば、かなりのものが手に入る中で、やっぱりこれは本物だというものを出していこうと思うと、研究は絶対に必要です。

私、自分自身が大学所属の研究者なので、研究活動についてコメントするつもりで来たんですけれども、ちょっとできないと感じました。

実は、次回のこの会議に向けて用意していただきたいものがあって、意見というよりも、お願いします。きょういただいた資料2は非常によくできていて、ここにはいろいろな理念とか目標とか、そういったことが書いてあって、それはそれでいいと思うんです。理念も目標もないと、研究の方向性というのは定まらないんですが、ただ、それがあれば研究できるかという、そんなことは全然なくて、それだけでは絶対だめです。

それでは、何が重要かという、これは非常にはっきりしていて、時間とお金です。今、琵琶博の研究員の皆さん、学芸員の皆さんがどういう時間配分で仕事をしていらっしゃるって、例えば週に幾つ会議があって、週に何時間ぐらい説明のデューティーがあって、それでも何時間は、あるいは何日は研究にリザーブすることができるのかという定量的な情報、それから内部の研究資金がどのように措置されているかという定量的な情報、それから外部の競争的な資金がどの程度獲得できているかという定量的な情報をいただきたいと思います。

それから、そういったものをある程度整えた上で、じゃ、研究活動がどの程度実際行われているのかという指標で、ここに載っている情報はこれでいいと思うんですけれども、現状部分に加えて、もし可能であれば、被引用回数の情報が欲しいです。

以上です。

○山西会長：研究活動に関するデータを次回までに整えていただきたいという要望ですが、よろしいでしょうか。お願いします。

5時を過ぎてしまいました。私の不手際で、研究面、資料面の話をほとんどできませんでした。申しわけありません。

これでマイクを事務局にお返ししたいと思います。

## 6 閉会

○司会（津田副館長）：会長さん、どうも長時間ありがとうございました。また、委員の皆様方におかれましても、長時間にわたりまして熱心にご議論、また貴重なご意見を頂戴いたしまして、まことにありがとうございました。

本日いただきましたご意見は全てにつきまして検討させていただきます、可能な限り対応し、今後の博物館活動に活かしてまいりたいと思っております。

なお、本年度、第2回目の協議会につきましては、29年3月ごろを予定いたしております。また事務局から、日程等の調整をさせていただきますので、その節にはどうかよろしくお願いを申し上げます。

それでは、これもちまして、平成28年度第1回滋賀県立琵琶湖博物館協議会を閉会させていただきます。皆様、どうもありがとうございました。

**[17時01分 閉会]**